

血族結婚部落に関する優生学的調査概報 (第二報)

——千葉県安房郡七浦村、豊房村調査——

篠崎信男
良田圭子
青木尙雄

序言

さきにわれわれは山梨県西山部落(1)及び新潟長野県境秋山郷(2)において血族結婚部落の優生学的実態調査を行い、わが国に多い同系結婚が、体格一般の倭小化を来し、殊に体力の弱化は著るしい事実を指摘したが、両部落共に山間人で地形気候良好ならざる地に住み、特殊の郷土食を攝り、それ等の後天的な制禦影響が部落民の体格体力に及ぶ可能性も当然考慮に入れねばならぬ制約があつた。既往の文献、例えば延川氏(3)の、高地人は「一般に」身長低く頭長大であるとの報告、又、小泉氏(4)の山地児童は身長低く胸囲大なりとの所論より見ても、前記のわれわれの調査結果が或は山間人を対象としたためのもので、体格体力一般の劣弱はさておき、或る部分は敢て血族結婚のためばかりとは云い切れないものがあるかも知れない憾みがある。

この問題を解くため、われわれは今回更にむしろ栄養良好気候温暖の海岸地にして外観の身体發育が一般人口に比して遜色なく、特

殊の遺伝病なき血族結婚部落(5)を殊更に選んで千葉県南部五部落に実態調査を行い、優秀素質はかかる條件の下にどの様に作用するか、環境はどの程度に影響するか、一般人口との差はどの部分に現われるかを種々の角度より究めようとしたものである。

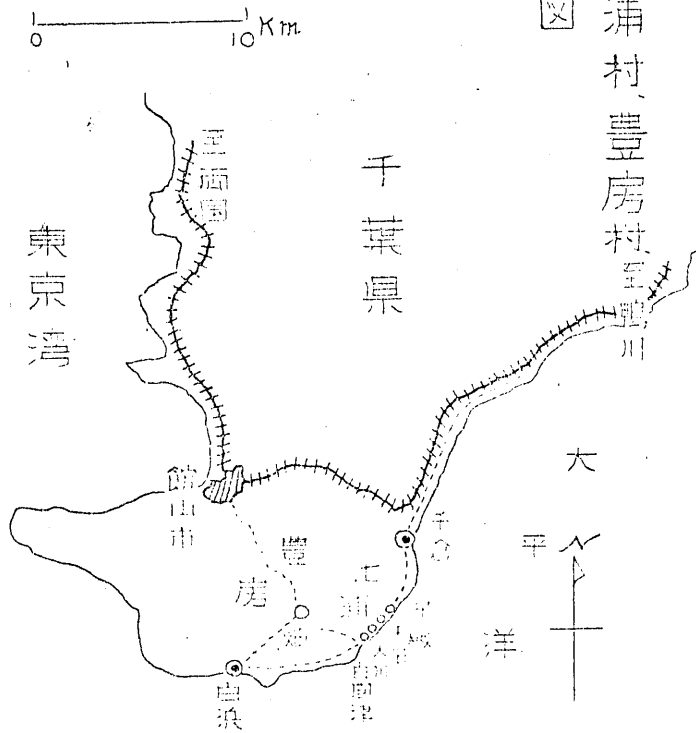
- (1) 人類学雑誌六〇卷三三号昭和二四年
 - (2) 人口問題研究六卷三三号昭和二六年
 - (3) 民族衛生一〇卷五号昭和一七年
 - (4) 民族衛生四卷三、四号昭和一〇年
 - (5) 人口問題研究資料全国血族結婚部落所在調査昭和二四年
- 唯茲に発表するのはその概報で、綜合成績による一般人口との比較及び、地域別血族濃度別による体格の相対的比較に重点をおき、家系別の遺伝系統分析、体構写真の判定分類、学童智能係数と体格体力との相関々係等の問題の発表は他日を期し度い。

(一) 地形、概況

千葉県安房郡七浦村四部落は館山市より約二〇軒、房総半島の最

南端に位し外房太平洋に面する海岸を東南三軒に亘つて点在する半農半漁の村で戸数七〇〇、気候は比較的溫暖で海岸より三〜四〇〇米にして北側を走る丘陵に挟まれているため、農耕地少く(第一表)米作は一年の中、村民の三ヶ月の食糧を與えるのみであるが近海魚

七浦村、豊房村、至鴨川



の漁獲量が豊で、あわび、さざえの特産物もあり村民の約七〇%は漁業兼業の農家で(第二表)男子は多く漁業にも従い、女子も農耕の外海女となつてあわび、さざえを採取しているものもある。

同郡豊房村畑部落は七浦村の北部に隣接して海岸沿いの丘陵上標高一二〇米に位し海岸より四軒の地点に在る六〇戸の部落で同村内の各部落よりむしろ七浦四部落に近く住民の殆んど大部分は農家で

(第1表) 種別面積

	七浦四部落	豊房畑
宅地	21.2	2.3
田	65.5	25.0
畑	73.3	13.4
山林	148.5	242.4
その他	55.4	—
計	町反 363.9	町反 283.1

(第2表) 職業別世帯数 (昭和23年)

	七浦四部落	豊房畑
農業	544	56
漁業	109	0
工業	28	0
商業	22	0
その他	—	4
計	703戸	60戸

(第二表) 米作麦作の外炭焼竹林苗木栽培を副業としてゐる。(第一表) 丘陵上の一小部落に過ぎないが生活豊で人情に富み都会に出て成功している郷土人も少くない。

(二) 歴史、沿革

七浦四部落は尾崎氏(東京学芸大学教授)菊池氏(千葉大学教授)等の説(6)或は古老等の言によれば徳川初期紀州より移住したものとしく隣村白浜、同村白間津等の地名の「白」は関西に多い地名で紀州の花崗岩の色に因むという。白間津部落は現在も紀州辺と言語、祭文等類似点あり、船で移住した際の船着の儀式行事が行われ、又大川部落には熊野すしの料理法(関西式箱すし)が残つてゐる。寺の過去帳の最古は元祿時代であり、徳川中期には一応の村落形態が整つたものと思われる。其の後数回の著明な地震のたびに土地が隆起し、現在の丘陵のすそから海岸は可成り東に拡がつてゐる。明治中期迄は墮胎の風習盛んでほづき菜、鳥もち、からし等を使用し、たらしい。血族結婚習慣の原因は現在では尾崎氏の云う漁民と農民とが対立して夫々團結したと言うような理由は現在見られず單に

「気心の知れた」ためとの答えが多い。

(6) 両氏の直接の談話による

豊房村部落は七浦村四部落より成立稍々古く伝説によれば元正天皇の御宇既に七戸の部落が在つたと云う。然し実際上部落形態の整つたのは徳川末期で幕府天領民として四八戸を記録している。村崎氏(木更津高校校長)(7)の調査に依れば畑附近には彌生式土器、黒耀石片が出土し、太平洋岸隆起現象より見て南岸白浜町(旧称真間と云い畑部落の真城跡と語呂類似す)と殆んど接続した海岸部落であつた模様で、周辺の岩石が比較的新しい第三紀層砂岩(水成岩)より成り、近傍に塩井あり又大網小網船作等の海に因んだ地名等の事実が興味を引く。近親結婚の習慣は親しい身内中で既存の財産を分散させない手段の一つとして選ばれたらしく、田畑の多い家系同士程その交流が盛んである。

(7) 未発表

(三) 人口事情

人口は徳川時代より増加殆んどなく最近一〇年間にあつても(第三表)七浦はわずかに二・四%の増加、畑部落のみ約三割の増加を示しているが之は主として疎開帰農の爲めで、戸数も徳川末期の四八戸より一二戸の増加に過ぎない。

出生率は低く横田博士の結論(8)が示す如く婦人の生殖能力が本質的に劣弱なるに非ざるかを疑わせる。(出産力と血族結婚の關係は(IV)に後述する)。死亡率乳兒死亡率も概ね高く死因は呼吸器系統よりも心臓肝臓疾患等の内臓系統に多く特異の状態を示している。婚姻率離婚率も共に高く、更に一五―一六〇歳階級人口が相對的に少いことを考慮に入れば可成り異常な値である。

(8) 人口問題研究四卷四号昭和一八年

年齢別人口においては一般人口に比して低年齢階級の比率少く、出生率の低下を思わせ、若中年層の率が可成り低いことは出稼離村

(第3表) 年次別人口

年次	七浦四部落		豊房畑部落	
	男	女	男	女
昭和16年	2,398	2,369	134	144
17	2,418	2,364	134	144
18	2,361	2,370	133	145
19	2,367	2,361	—	—
20	2,373	2,348	133	160
21	2,342	2,331	165	178
22	2,312	2,359	—	—
23	2,367	2,382	183	183
24	2,386	2,495	192	168
昭和16年より 24年の増加率	(+)	2.4%	(+)	29.4%

(第5表) 年齢別性別人口

(昭和23年)

年齢階級	七浦四部落		豊房畑部落	
	男	女	男	女
0—9歳	443	496	52	45
10—19	430	462	27	29
20—59	746	893	85	82
60—	249	272	21	26
計	1,873	2,123	185	182

(註) 七浦村は一部分欠

(第4表) 年次別人口動態各率 (七浦村のみ)

年次	出生率	死亡率	乳兒死亡率 (出生100対)	婚姻率	離婚率
昭和16年	24.1	14.5	11.3	17.4	1.5
17	27.6	19.7	9.1	13.0	1.3
18	32.8	16.7	12.9	14.0	1.5
19	26.0	19.7	13.0	12.5	1.7
20	17.6	26.9	12.0	7.0	0.6
21	23.1	26.1	6.5	9.6	1.3
22	24.5	19.1	5.0	21.6	1.9
23	30.5	15.6	3.4	16.6	1.9
24	33.4	9.8	4.9	13.7	0.4

によると共に低年齢の少い事もその原因と考えられるが、老年層の著るしく比率高い事実は、(長壽者が極めて多い)乳兒死亡率の高い事実と思ひ合わせて明瞭なる「一つの山」の淘汰を想像せしむる。(註)この天逝と長壽の共存は既往の秋山郷調査においても見られた。

(四) 調査背景

調査時日は昭和二五年七月六日—十一日。前述の如く七浦村は男子の出漁多いため、調査人員に可成り制限を受け、全調査人員は二一九名の少数に止まつた。家系数は二重いとこ以上の濃度六を含む七四家系、一家系当り約三人の調査である。調査対象の家職は部落全体の職業分布と大概同じく、学歴は九割以上が小学校卒、他村他府県の生れは殆んどなく、大部分は土着の人で通婚範囲も限られている。唯女子は東京其他の都会えの女中奉公多く四割以上に達するが、期間は大部分一乃至三年である。(第六表—第一〇表)。

(第6表) 調査人員

	16歳以上	16歳未満	計
男	38	48	86
女	82	51	133
計	120	99	219

(第7表) 調査家系数

叔父	姪	1
二重いとこ	いとこ半こ	5
いとこ	いとこ	59
いとこ	いとこ	6
いとこ	いとこ	3
計		74

(第8表) 調査家系の職業

農業	兼業	業者	34
漁業	兼業	業者	26
漁業	兼業	業者	4
商労働	業者	人	1
労働	業者	人	3
労働	業者	人	2
計			70

(第9表) 調査対象の学歴

	男	女
旧制中卒	5	6
小学校卒	33	68
無	0	1
新制中・高在学	2	18
小未就	34	28
計	11	12
計	86	133

(第10表) 調査対象の出生地移住地

[出生地]		
	男	女
当村	38	71
他村	0	3
他府	0	1
不明	0	7
計	38	82
[移住地]		
	男	女
移住経験ナシ	26	41
東の他の地	7	30
其の他の地	5	4
不明	0	7
計	38	82

(註) 16歳未満は男女共全部当村生れ移住なし

(五) 調査成績

(I) 総合成績

(A) 生体計測(一六歳以上)

(第11表) 軀幹部計測値

項目	男		女	
	M	± m	M	± m
	(実数 38)		(実数 81)	
	cm		cm	
身長	159.26	±0.67	148.66	±0.47
坐高	86.63	±0.43	82.01	±0.32
上肢長	71.79	±0.43	65.99	±0.29
下肢長	83.05	±0.51	77.62	±0.36
肩幅	36.75	±0.26	33.34	±0.18
胸囲	85.66	±0.65	79.93	±0.55

(註) 下肢長は右側腸骨前上棘高より換算

イ、軀幹部計測値(第一表)

身長は男女共凡そ日本人の平均値(9)に等しく、胸囲はかえつて優秀である。然し乍らこれを上下半身に分ちその構成を見ると身長に比して坐高(比坐高男五四・四、女五五・二)上肢長(比上肢長男四四・九、女四四・三)長く、下肢長(比

下肢長男五二・一、女五二・二)短く「胴長の脚短か」という状態を呈している。この事は日本人殊に都会人(即ち広義の国内混血者)が年々身長を増しその増加の原因が下半身の脚の長さの發育にある事と対照して興味ある事実を物語っている。肩幅は胸囲大なるにも拘らず可成り狭く斯る事実はその相関關係に於いて注目すべきものがある。総じて標準偏差の値が小なる事実が示す如く、各計測値の分布は極めて集中的で、秋山卿の分離に比して定着している。

(9) 人口問題研究資料五九号昭和二五年

口、頭部計測値(第一二表)
頭圍は短く、全頭高は可成り低い。最大頭長は一般の値に比して

甚だ短く逆に最大頭幅は可成りの高値を示している。即ち頭幅以外は頭部の發育概ね悪く、短頭を示し西山、秋山の調査結果と頭部發育の不良の点では一致し短頭と長頭と言う点には逆の傾向を示している。

ハ、顔部計測値(第一三表)

頭幅の広さに伴つて最小前頭幅、顴骨弓幅、及び下顎角幅等何れも広く示され、一方その割に形態学顔高は普通の値を示し、前述の全頭高の不良と相俟つて顔形が縦に短く横に長く現れ、西山、秋山の結果と略々その傾向を一にする。

(第12表) 頭部計測値

項目	男		女	
	M ± m	(実数 38)	M ± m	(実数 81)
全頭高	22.16 ± 0.16	cm	20.86 ± 0.11	cm
頭囲	55.13 ± 0.22		54.36 ± 0.14	
最大頭長	18.63 ± 0.12		17.92 ± 0.08	
最大頭幅	15.43 ± 0.08		14.94 ± 0.06	

(第13表) 顔部計測値

項目	男		女	
	M ± m	(実数 38)	M ± m	(実数 81)
形態学顔高	11.93 ± 0.12		10.84 ± 0.05	
最小前頭幅	12.18 ± 0.09		11.91 ± 0.04	
顴骨弓幅	14.36 ± 0.08		13.69 ± 0.06	
下顎角幅	11.19 ± 0.07		10.51 ± 0.05	

二、体力測定値(第一四表)

握力は男女共甚だ低く、標準に比し三乃至五kgの差をつけている。更に背筋力も三〇—五〇kgの差で標準に及ばない。肺活量も可成り下廻つた値である。奥山氏(10)の等級分類に従えば、握力は男女左右共「丙」、背筋力は男「特丙」女「丙」、肺活量は男女共「乙下」となっている。(肺活量のみ「乙」の部に入るのは七浦に漁夫海女

(第14表) 体力測定値

項目	男		女	
	M ± m	(実数 38)	M ± m	(実数 81)
握力右	35.59 ± 1.43	kg	22.43 ± 0.61	kg
〃左	22.61 ± 1.46		20.61 ± 0.60	
背筋力	108.16 ± 4.68	c.c.	58.28 ± 1.76	c.c.
肺活量	3239 ± 11.57		2123 ± 5.49	

(第15表) 栄養測定値

項目	男		女	
	M ± m	(実数 38)	M ± m	(実数 81)
体重	53.59 ± 0.92	kg	52.00 ± 0.68	kg
皮厚	0.48 ± 0.05	cm	0.69 ± 0.06	cm
上膊囲	25.18 ± 0.29		25.08 ± 0.26	

各計測値を見ても、体重が優秀(殊に女)なるにも拘らず皮厚は標準より男一mm強、女六mm程の差をつけて劣り、わづかに上膊囲において男女共平均値に近い程度を保っているに過ぎない。

乳房型は円錐型が多くその他の栄養状態については特記す可きものはなつた。詳細は体構写真を参照され度(紙面の都合上割愛)。尙海岸地に居住し海女も多いに拘らず一般に乳房の扁平なる事実は後述の妊娠率の少い事実との或る関連を暗示させるものがある。

(B) 生体計測(一六歳未満)

一六歳未満の未成年者については年齢により体格体力に著るしい

があるためと思われる。体力の劣弱さについて一言すれば海岸近くで動物性脂肪蛋白を充分に攝り得る(後述の脚気口角炎の多い事を参照)環境にあつても高山地と同様同系結婚は体力の低下を伴う事は疑い得ない。尙、標準偏差は分布広く秋山郷と同様「二つの山」をなしている。

(10) 労働科学研究一巻一号

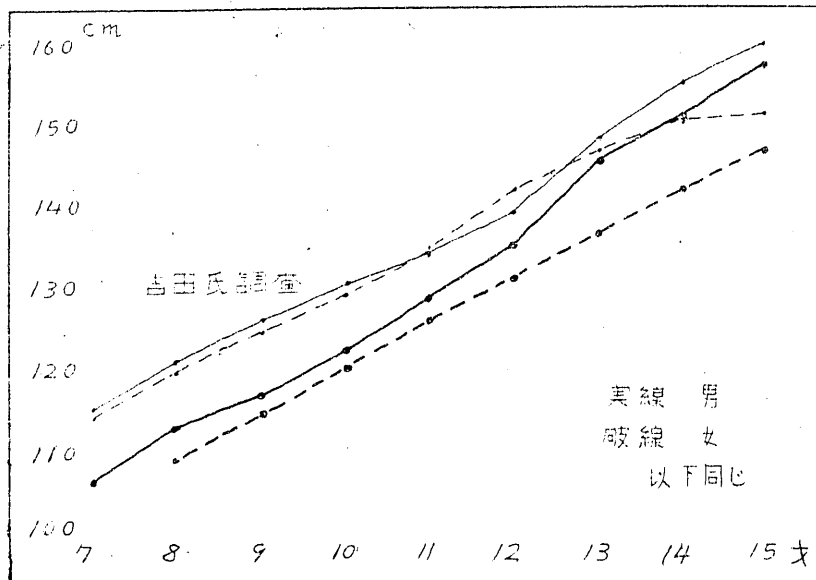
ホ、栄養測定値(第一五表)

(第16表) 軀幹部計測値(16歳未満)

年齢	男				女			
	実数	身長 cm	坐高 cm	胸囲 cm	実数	身長 cm	坐高 cm	胸囲 cm
7	3	106.2	58.8	55.3	0	—	—	—
8	8	112.4	61.7	56.6	5	108.8	61.2	54.4
9	4	116.8	63.9	58.2	5	114.7	63.7	59.6
10	9	121.9	67.1	59.6	4	120.3	66.1	59.5
11	5	128.5	69.6	61.0	3	126.1	69.4	59.9
12	3	134.5	71.5	63.5	7	130.6	69.4	61.9
13	2	145.1	76.5	67.5	3	136.3	72.5	66.2
14	2	150.7	79.1	70.9	2	142.3	76.1	69.5
15	2	156.4	85.1	78.9	9	147.4	79.1	73.4

(註) 骨膜炎兒童(89j) 1を除く、以下同じ

第一図 身長



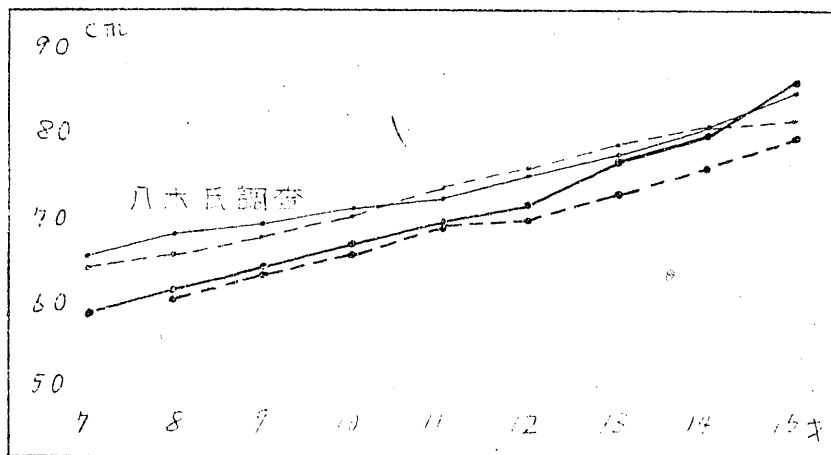
開きがあるので満年齢別の集計を行つた。唯年齢別にするとき実数が少くなるので多少の誤差は免れない。又グラフ(第一図—第九図)に於ては吉田、八木、石川諸氏の測定値(1)もとつて比較対照したが、諸氏の調査は戦前のものであり、且つ文部省統計、厚生省統計省統計の値より稍々高すぎる嫌いがあるので絶対値の比較よりも年齢傾向の比較に重点を置いた。

(1) 吉田章信著体力測定昭和一九年より引用
イ 軀幹部計測値(第一五表、第一—三図)
身長は一五歳に至つて概ね標準値に近づくが一三歳以前には可成

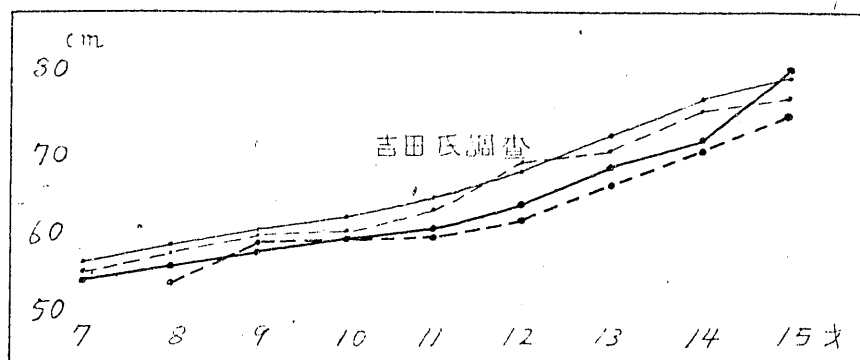
りの開きがある。殊に女は一二歳台の所謂「追越し」が見られず後半に於いて男との開きが相当程度見られる。坐高においても男の前半、女の各歳に互り且つ「追越し」のない不振は身長と同様であるが、男の後半はむしろ標準に優り、成年の比坐高の過大の因を既に形成している。胸囲は比較的標準に近いが一三—一四歳に中だるみが見られる。

ロ、体力測定値(第一七表、第四—六図)
握力は男女左右共相当標準値に劣り、殊に女の後半において著しい。背筋力も甚だしき差異を見せ、男一五歳の例外を除く外横は

第二圖 坐 高



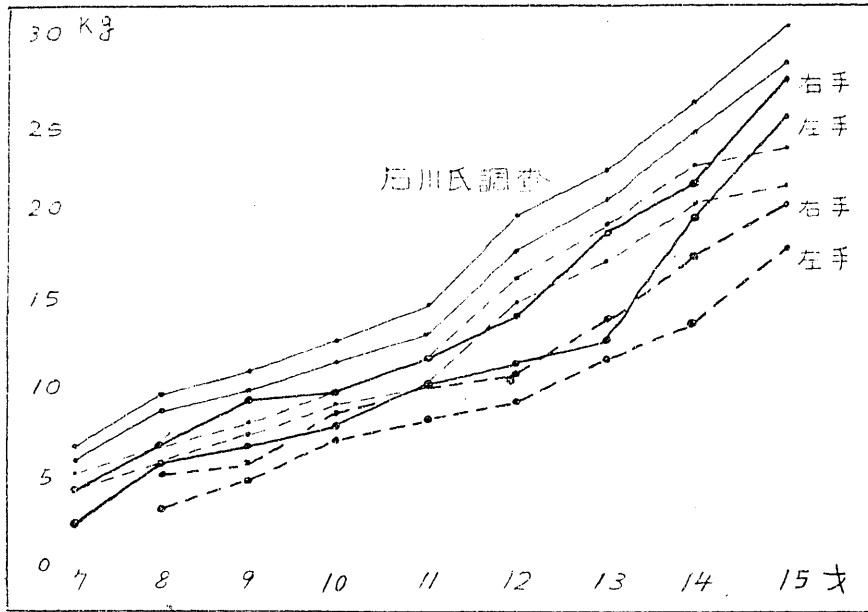
第三圖 胸 囲



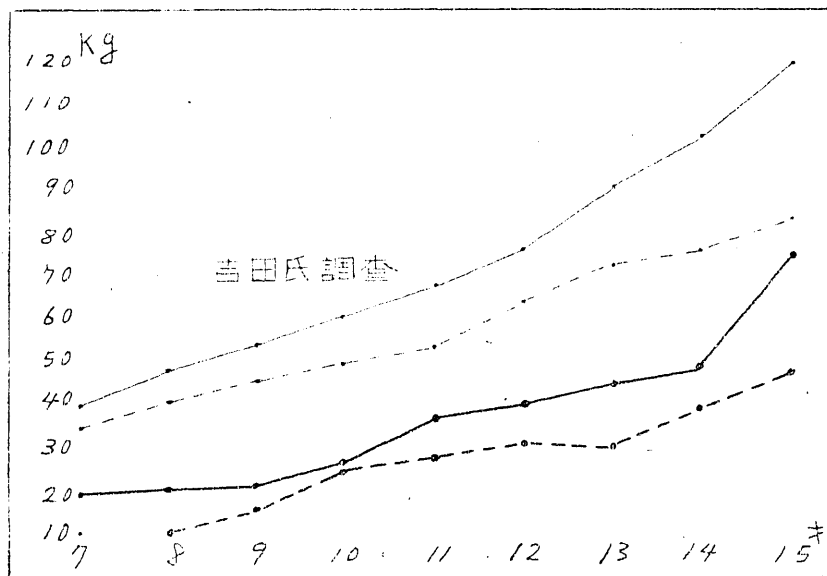
(第 17 表) 体 力 測 定 値 (16 歳 未 滿)

年齢	実数	男				女				
		握力		背筋力	肺活量	握力		背筋力	肺活量	
		右	左	kg	c.c.	右	左	kg	c.c.	
7	3	4.5	2.3	19.5	1900	0	—	—	—	
8	8	6.6	5.9	20.1	1024	5	5.2	3.0	10.2	1400
9	4	9.3	6.5	21.4	1113	5	5.6	4.5	16.7	1000
10	9	9.4	7.8	26.7	1360	4	8.5	7.0	26.6	1175
11	5	11.5	10.1	36.4	1410	3	10.0	8.0	28.0	1200
12	3	14.0	11.2	40.0	1600	7	10.9	9.0	32.2	1313
13	2	18.5	12.5	45.5	1700	3	13.7	12.0	30.7	1443
14	2	21.5	19.5	48.5	2450	2	15.5	13.5	39.9	1650
15	2	27.5	25.5	74.0	3350	9	20.3	17.8	47.0	1718

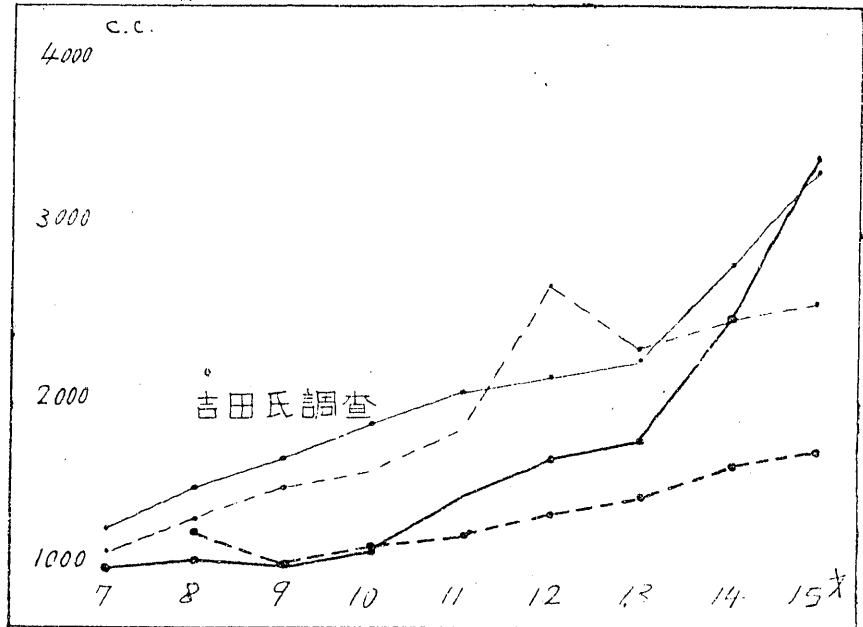
第四圖 握 力



第五圖 背 筋 力



第六圖 肺活量



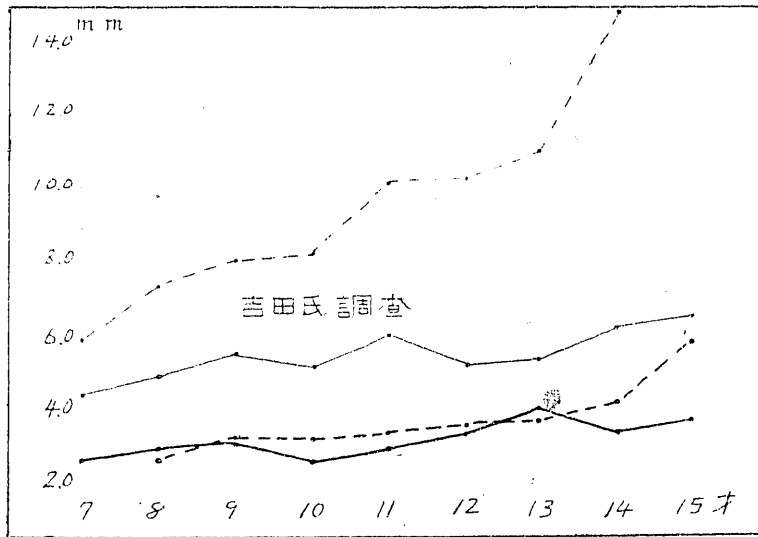
い状態である。肺活量も劣弱で男の前半年の後半に著しく劣弱である。
 ハ、栄養測定値（第一八表、第七—九圖）
 体重は比較的標準値と同一カーヴをついているが中だるみあり、女の「追越し」が見られない。皮厚は男女差が少く女も横ばい状態を呈している。上膊囲は、男は稍々標準に差をつけてられているが、

（第 18 表） 栄養測定値（16歳未満）

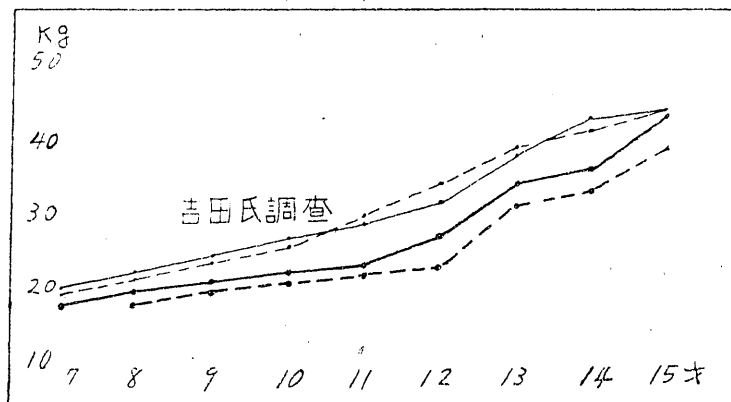
年齢	男				女			
	実数	体重 kg	皮厚 mm	上膊囲 cm	実数	体重 kg	皮厚 mm	上膊囲 cm
7	3	17.52	2.35	15.2	0	—	—	—
8	8	19.35	2.80	15.4	5	17.14	2.60	15.9
9	4	20.40	2.90	15.4	5	19.66	3.10	16.7
10	9	21.59	2.35	16.2	4	20.21	3.00	16.9
11	5	22.99	2.80	16.9	3	22.26	3.25	17.4
12	3	27.71	3.15	17.4	7	22.86	3.35	18.1
13	2	34.16	3.80	19.1	3	31.32	3.40	18.0
14	2	35.42	3.20	19.6	2	33.12	4.00	19.3
15	2	43.93	3.50	20.9	9	38.55	5.65	22.1

このみ女の成育よく一三—四歳を除く外男を凌駕して標準に迫っている。
 イ、視力（第一九表）
 視力は男女別に殆んど差が見られず、平均値は共に一度、男の方が稍々良好である。所謂健常視力（一度以上）の瀬度を見ても男六

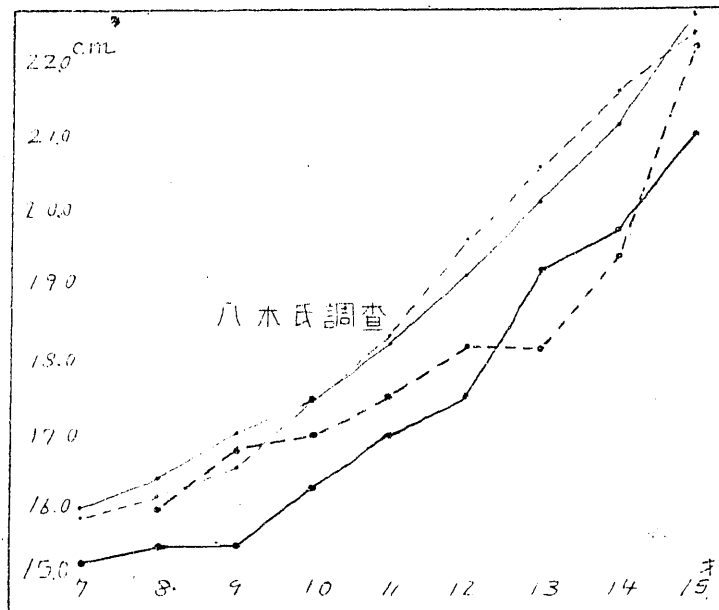
第七圖 体 重



第八圖 皮 厚



第九圖 上 膊 圍



(第20表) 色 神

	男		女	
	N	%	N	%
正 常	75	98.7	109	100.0
色 弱	1	1.3	0	—
色 盲	0	—	0	—
計	76	100.0	109	100.0

(註) 検査は石原氏色盲表による

(第19表) 視 力 (満40歳未満)

項 目	男		女	
	M ± m	(実数 46)	M ± m	(実数 90)
視力右	1.04 ± 0.04		1.00 ± 0.03	
視力左	1.02 ± 0.04		1.00 ± 0.03	

(註1) 測定は石原氏視力表による

(註2) 角膜炎(♂1)緑内障(♀1)重症トラホーム(♂1、♀3)除外

割、女五割となり極めて優秀で秋成郷調査と軌を一にし、都会生活者の弱視力と好対照を成している。勿論この対照は同族結婚と異族結婚の差異に基因するとはいわかに断定は出来ない。即ち種々の後天的環境が相当の比重を占める事は明らかであるし、又同じ環境の農村漁村においても同族結婚の有る無しでどの程度視力の差異を有するかは比較の材料を欠くため茲に論じ得ないが或る程度は遺伝素因が影響している事が想像し得よう。

口、色 神 (第二〇表)

色神は全被検者中男一名(六二歳)の色弱を除いては色神異常なく色盲は皆無であつた。石原氏(註)によれば日本人は男四一六%、女〇・〇二%の色盲を含むと云うが、この一般人口の色盲頻度すら見当らず、秋成郷の男二五%とは大なる相違で、血族家系に多い赤綠色盲も色盲遺伝因子が無ければ、ホモ結合においても色盲は発現しない実例を如実に示している。

(註) 眼科臨床誌一八卷大正一三年ハ、血液型(第二一表)

血液型は一般人口の分布に比較してO型が少くAB型が多い。B型も稍々多いので民族示数は

(第22表) 歯 型

	男16歳以上		男16歳未満		女16歳以上		女16歳未満	
	N	%	N	%	N	%	N	%
咬 合 型								
銜 状	21	55.3	22	62.9	52	63.4	23	65.7
鉗 子	17	44.7	12	34.3	30	36.6	12	34.3
屋 状	0	—	1	2.8	0	—	0	—
計	38	100.0	35	100.0	82	100.0	35	100.0
齧 歯								
無 し	1	6.7	28	90.3	6	8.7	29	87.9
有 り	32	93.3	3	9.7	66	91.3	4	12.1
計	33	100.0	31	100.0	69	100.0	33	100.0
平均 齧 歯 数	7.5		0.2		8.2		0.2	

ニ、齒 型 (第二二表)

咬合型については鉗子状咬合に比し銜状がより多いが、小金井、山田兩氏等(註)の分布率程の開きは少い。もし咬合型が人類の進化と共に類人猿の鉗子咬合から人類特有の銜状へと移動しつつあるとの説が真実なら、この銜状の相對的少率は血族結婚が咬合において

(第21表) 血 液 型

血液型	N	%
A	77	38.1
B	57	28.2
AB	33	16.3
C	35	17.4
計	202	100.0

民族示数 $\left(\frac{A\% + AB\%}{B\% + AB\%} \right) = 1.22$

一般の一・四一・八に比し一・二と少くなつてゐる。秋成郷のA型多く其の他が少い瀕度と結果が逆になつて何れにせよ血族結婚による血液型の一方的集中を物語つてゐる。殊に一般に變動が少いと云われてゐる(註)B型、及びこれに伴うAB型の多い事は興味ある事実である。

(註) 古畑種基著民族と血液型 昭和二三年

(第 23 表) 血 圧

年齢階級	男			女		
	N	平均極大圧 mm	脈圧 mm	N	平均極大圧 mm	脈圧 mm
15~19歳	4	105.0	42.5	13	103.4	43.1
20~24	0	—	—	4	115.0	45.3
25~29	2	125.0	45.0	12	112.0	45.2
30~34	6	127.5	60.5	10	118.5	51.5
35~39	9	126.7	56.4	14	118.8	51.4
40~44	3	128.3	58.3	6	120.0	50.3
45~49	4	127.5	57.5	8	124.4	56.8
50~54	4	127.5	46.3	3	128.3	56.7
55~59	1	160.0	60.0	1	160.0	80.0
60~64	4	131.3	58.8	2	135.0	60.0
65歳以上	2	125.0	52.5	2	135.0	55.0

(註) タイコス式血圧計による聴診調査

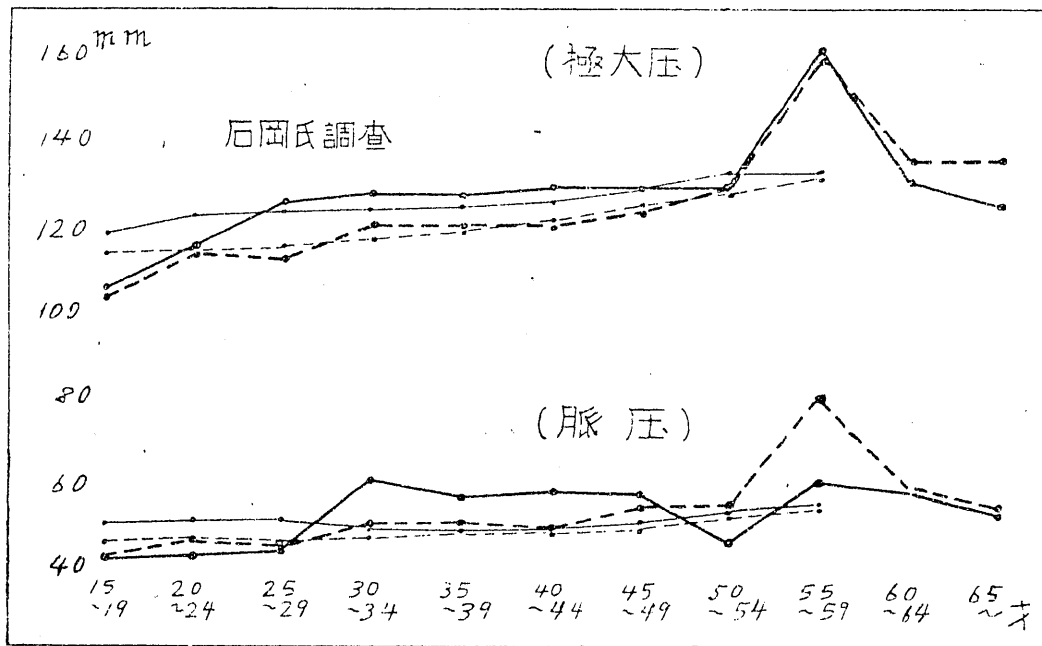
ホ、血 圧 (第二三表、第一〇図)

(14) 藤田恒太郎著歯芽の人類学昭和一四年より引用

(15) (14)に同じ

も所有者の瀕度は退化現象を阻止していると云い得る。齲歯においても八百枝氏の九四% (兵士)、宮原氏(15)の八七% (兒童) に比し少く、殊に兒童において優秀である。唯、 M_1 は過半数が四〇歳を超 (第三大臼歯即ち智歯) 殊に下顎 M_1 は過半数が四〇歳を超萌出してない。これを一般の一七―二五歳の萌生に比すれば、その欠如率高く茲においては退化が見られる。齒列不整については上顎犬歯の前庭側転位、左右門歯離開が若干あつたが、秋成郷調査程の高率は見られない。

第十圖 血 圧



拘らず稍々高い。五五―五九歳の山は男女共実数一の特異例で除外すべきである。更に脈圧 (極大圧と極小圧の差) について見れば男

石岡氏調査(16)による一般人口の平均値に比較してそれ程の差異はないが、極大圧は男の二五―四五歳間の値は海産物の栄養良好にも

女共中年層の高まりが可成り明瞭に示され殊に男は必ずしも良好とは云えない。ただし極大正一五〇を越える所謂高血圧症は男三、女の少数であつた。

(16) 保険医学誌三八卷一号

へ、聴力(第二四表)

聴力については、男一(五一歳)の右耳にのみや難聴が見られただけで、血族結婚に多いと云われる遺伝性難聴症は調査人員の少数のせいもあるが全然見当らない。

ト、胸部、体構診察(第二五表)

概ね胸部疾患少く、体構発育も良好で男に漏斗形、狹形各一、女に胸郭変形一を見たに過ぎなかつた。

チ、病歴

肺炎、肋膜炎、肺炎カタル等の肺疾患の既往症も若干見られたが、殊に腎臓炎脚氣多く又、神経痛も少くない。子宮内膜炎、子宮

(第24表) 聴力

	男		女	
	N	%	N	%
完全	75	98.7	110	100.0
難聴	1	1.3	0	—
計	76	100.0	0	100.0

(註) ポリツエル音叉聴力計による

(第25表) 胸部及び体構診察

	男		女	
	N	%	N	%
O B	74	97.4	109	99.1
異常	2	2.6	1	0.9
計	46	100.0	110	100.0

後屈等性器の既往症も多い。未成年者にあつては、口角炎の現在罹患が極めて多く二割に及

(第26表) 地域別血族濃度

部落名	人口	戸数	血族結婚戸数	率	部落の性格
白間津	1,356	316	24	7.6	漁業者多し
大川、平磯、千田	3,525	495	44	8.9	半農、半漁
畑	360	60	17	28.3	全部農家

(第27表) 地域別生体計測値

	男			女		
	白間津	大川、千田、平磯	畑	白間津	大川、千田、平磯	畑
実数	12	12	14	35	35	11
平均年齢	47.8	41.4	39.7	35.2	33.9	31.6
身長	159.2	159.9	159.2	148.6	149.1	148.4
胸囲	85.8	85.3	85.7	81.0	79.4	79.3
最大頭長	18.85	18.53	18.46	18.01	17.91	17.06
最大頭幅	15.37	15.35	15.56	14.84	14.98	15.14
体重	55.28	53.25	51.85	52.15	52.24	51.32
握力(右)	36.7	35.9	35.1	22.4	22.1	22.0
背筋力	116.1	108.8	106.3	59.4	58.4	56.7
肺活量	33750	30080	31030	2120	2210	1850

(II) 地域別成績

び、厚生省公衆衛生局調査(昭和二三年)(17)の農村一乃至二%に比し著るしい高率を示している。成年の慢性胃カタル、胃酸過多症、等胃疾患の多いのも良好とは云えない。

(17) 衛生統計誌二卷二号昭和二四年

前節において部落民の綜合成績を種々の角度より分析したが、各地域によつて血族結婚の率も部落の性格も夫々異なるので(第二六表)実数は更に少となるが、三地域に分けて主要なる生体計測項目のみを第二七表に示した。之に依れば、調査人員の平均年齢は殆んど差

異はなく、畑部落が稍々若い程度で、年齢による計測値の偏差は考慮に入れる必要はないと思われる。計測数値の序列の順位成績は、この項目における一段階のみの違いはあつても最大頭幅を除く外は概ね血族濃度が増すに従つて体格体力共に小となる。之の事は男女に共通し、殊に体力において著しい差異を見せる。而して、その差異の程度は大體血族結婚率の差異に匹敵し、率の差の少い白開津地区と大川千田平磯地区とは比較的似た値を示し、畑地区がこの両者に可成りかけ離れて低い値を示す。勿論前二者は同一の村の部落で環境も相似している事もその原因であるが血族濃度も或程度関與していることは疑えない。

(III) 濃度別成績

更に別な角度より、即ち、同じ血族結婚家系においても、イトコハトコの間を生じた子は同系の両親の結婚によつてホモになつてその遺伝素質が発現する可能性があるからこの一群を便宜上ホモ群と呼び、血族結婚の影響を充分深く受けたものとし、又、一方両親について云えば互いにイトコではあつても夫々自身の体格性質は血族結婚による結果ではなく（家系表によればイトコ以上の遠い親戚間の結婚によるものも含まれているが）、又、両親の兄弟姉妹も然る一群に属し、これらを便宜上ヘテロ群と呼び、この二群の計測値を比較して見ることにする（第二八表）。ただしヘテロ群のみ過重に老年層を含むので年齢による偏差を考慮して満五〇歳以上を除いた。これに依れば男女共、最大頭幅を除く外は総てヘテロ群が優秀でホモ群は之に劣り殊に体力に於て著しい劣弱さを示している。血族間の子孫がその両親及び両親の兄弟に比し弱体化することは疑を入れる余地がない様に思われる。

(第28表) 血族濃度別生体測値

	男		女	
	Homo	Hetero	Homo	Hetero
実数	12	16	27	45
平均年齢 (除50歳以上)	30.9	39.2	22.8	35.7
身長	158.2	160.2	149.6	149.7
胸囲	84.3	87.4	79.6	80.9
坐高	86.5	86.7	81.8	82.3
最大頭長	18.23	18.71	17.53	17.99
最大頭幅	15.47	15.40	15.02	14.93
最大頭重	52.34	57.00	50.08	51.40
握力	35.0	39.4	21.7	23.0
右腕力	19.0	24.6	20.2	21.3
左腕力	105.0	129.7	55.4	59.2
肺活量	3120	3620	2030	2650

(註) 1. 50歳以上のものを除く
2. Homo. Hetero の意味は本文参照

(IV) 婚姻及び出産歴

血族結婚の多くは「気心の知れた」間柄のためであるが、更にその婚姻成立時の形式を示せば（第二九表）親同士のとりにきめが圧倒的に五割を超し、前記の理由を窺わせるに足る。婚姻年齢は平均二一歳、特殊の婚姻風習は見られない。月経状態については（第三〇表）、第二八表と同じくホモとヘテロの両群に分けてその差異を見れば、初潮年齢はホモ群が約五ヶ月遅れ、ヘテロ群は一般平均の一四年半に近い。

(第29表) 婚姻の形式

	N	%
親のとりにきめ	41	57.7
親及び親戚仲介	9	12.7
親戚の仲介	18	25.4
恋愛	1	1.4
其他	2	2.8
計	71	100.0

血族結婚の多くは「気心の知れた」間柄のためであるが、更にその婚姻成立時の形式を示せば（第二九表）親同士のとりにきめが圧倒的に五割を超し、前記の理由を窺わせるに足る。婚姻年齢は平均二一歳、特殊の婚姻風習は見られない。月経状態については（第三〇表）、第二八表と同じくホモとヘテロの両群に分けてその差異を見れば、初潮年齢はホモ群が約五ヶ月遅れ、ヘテロ群は一般平均の一四年半に近い。

(第30表) 月経状態

	homo	hetero
平均初潮年齢	15.30	14.92年
月経不順率	27.8	17.0%
平均月経週期	28.1	30.5日
(実数)	27	45

(註) 1. homo. hetero の意味は28表に同じ
2. 不順率の意味は本文参照

月経不順率(次の予定日より前後動搖一〇日以上のもの若くは全然予定日を決められないものを不順者とし、全員に対する百分率をとつた)はホモ群が三割近くに及び、ヘテロ群(われわれの東京、埼玉における調査一五・六%に近い)の一・六倍に達する。而してこの

る。只、この事がホモ結合による遺伝素質発現の直接的影響によるものか、性器疾患、体力劣弱等を通しての間接的影響によるものか、又、(註)において述べた低出生率への関與ほどの程度のものか等の問題は、更に詳細なる調査に俟たなければならない。

(註) 未発表(一部は厚生時報五卷一二号昭和二四年に発表)
(19) 人口問題研究六卷三号昭和二五年

(六) 要 約

われわれは、わが国に比較的多いと謂われる血族結婚の優生学的調査研究の目的を以つて従来血族結婚部落の臨地調査を実施して来たが、今回、前二調査が共に山間部落で、山間人の蒙る必然的影響と、血族結婚の興える影響との混合を避けるため、特に気候榮養等の環境の良好な海岸地を選んで、昭和二五年七月、千葉県安房郡南部の二村五部落の血族家系七四、人員二一九名を調査して次の如き結果を得た。

- 1 身長、胸囲、体重は男女共一般人口に遜色ないが、体格構成の上、下半身率の發育に遺伝影響を認め、環境も個々の項目までは改善し得ず、短頭、長頭の逆を除いては前二調査に一致する。
 - 2 体力は甚だ劣弱で、良い食料も上膊間体重においてのみ効果を上げるに止まる。
 - 3 体格、体力のかかる劣勢は、既に発育期においても認められる。
 - 4 視力は優秀で、色盲聴力等は悪質遺伝無き場合は血族結婚の影響が無い。
 - 5 地域別、濃度別によつて、血族結結の影響が深いグループ程、体格体力の成育が悪い。
 - 6 月経、妊娠力にも血族結婚の影響がある。
- 以上の事柄を結論することが出来よう。

(第31表) 妊 娠 力

	実数	妊娠数	妊娠危険期間	妊娠率
同族間	52	231	693.0	33.6
異族間	7	33	101.4	43.9

(註) 1. 妊娠率算定基準はパールの方法による
2. 同族、異族の意味は本文参照
3. 満50歳以上婚姻期間は打切り

ルの方法を用い、妊娠危険期間百年対妊娠率を示すことにする(第三一表)。之に依れば、イトコ、ハトコ等の同族結婚(同族間と記す)の妊娠率が三四であるに對し、同じ家系内の女であつても他の家系の女と結婚した人(異族間と記す)の妊娠率は、実数が少い為、不確実な嫌いはあるが、同族間を上廻る四四の率を示し(東京都産産児制限実行者の不実行期間妊娠率六三)(19)、

可成り著明な差異を示している。此の事は秋山郷の調査においても同様で、血族結婚が妊娠力の低下を促す事実は殆んど確実と思われる。

率は未婚者を除いても変わらない。月経週期はヘテロ群の三〇・五日(東京埼玉三〇・九日)より、ホモ群は短く二八・六日と現われ、純粹人類型乃至チンパンジー型(二八日型)に近づいている。妊娠力については、種々の測定方法が考えられるが、茲では便宜上パールの方法を用い、妊娠危険期間